

1. 開催概要

展覧会名	オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	2018 年 9 月 26 日～12 月 17 日	185,597 人 (開会式・内覧会を含む)
●開催概要 ※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入 ※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入 本展覧会は、オルセー美術館の豊富なコレクションを中心に、国内外のコレクションのご協力を仰ぎ構成されたボナールの大規模な回顧展で、絵画のほか、素描や版画、写真といったさまざまなジャンルを通じて、謎多きボナールの魅力に迫った。日本では名前や作品を十分に知られている画家ではないため、編年的な構成のなかに「グラフィック」「写真」「裸婦」「静物画」「風景」「アルカディア」といったテーマを設け、制作の過程やスタイルの変遷をたどりやすくする工夫をした。主題はいずれも身近ながら、目にした光景の鮮烈な印象を絵画化するための「視神経の冒険」がどういったものだったかを理解してもらうために、初の試みとして、日経イノベーション・ラボという研究開発部署が制作した VR で、画家の視点を疑似体験できる新たな絵画鑑賞体験を取り入れた。 一般来場者アンケートでは、「写真やデッサンからどのように絵画作品が生まれるのか知ることができた」、「ボナールの画業を多面的にとらえることができた」「絵画体験 AIT では風景の中にいるみたいで感動した」といった好意的な意見が多く寄せられた。 10 月 16 日付朝日新聞では、東大教授で美術史家の三浦篤氏が、出品作品が充実していることを述べつつも、知名度の低い画家をわかりやすく伝えようとして、「知視覚と絵画のはざまで大胆かつ過剰で異様な試みを行ったボナール」を感じさせる踏み込みが足りないという点を温かく指摘し、今後の課題を込めて「本展が重要な里程碑として称賛に値することは間違いない。その上ですべての展覧会は新たな出発点となる。観客の成熟とともに、さらに踏み込んだボナール展が可能になる日を夢見よう。」と評した。 最終的に 18 万を超える来場者を迎え、ピエール・ボナールという画家とその作品を国民に知ってもらうひとつの機会になったと考えている。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入

■展示作品の充実

本制度の適用により、カーゴ便での輸送が必須である大型作品の輸送費に充当することができた。それによって、晩年の代表作を充実させることができ、見ごたえのある展覧会構成が可能となった。

■観覧料の無料化・軽減

通常実施の中学生以下無料に加えて(2,601 人来場)、11 月 14 日(水)～11 月 26 日(月)の期間、高校生無料観覧日を 12 日間設け(期間中 492 人来場)、次世代を担う子供たちに優れた美術品を鑑賞する機会を提供した。

■教育普及活動の充実

ジュニアガイドを制作し、約 7 万部を都内の小中学校に発送、会場にて会期中約 3 万部の無料配布を行った。また、以下のとおり講演会やレクチャー、対談、シンポジウムなどを実施し、計 1,200 名あまりが参加、幅広い来場者層が作品への理解を深める機会を整えた。

教育普及活動の実績・具体例

◎講演会「ピエール・ボナール 終わりなき夏」

日時:9 月 26 日(水)14:00～15:30

会場:国立新美術館 3 階講堂

講師:イザベル・カーン(本展監修、オルセー美術館絵画部門統括学芸委員)

聴講者数:240 名

◎担当研究員による展覧会レクチャー

日時:①10 月 13 日(土) 14:00～15:30

②11 月 25 日(日) 14:00～15:30

会場:国立新美術館 3 階講堂

聴講者数:①220 名 ②230 名

◎対談「ボナールの教え」

日時:10 月 27 日(土) 14:00～16:00

会場:国立新美術館 3 階講堂

出演者:岡崎乾二郎(造形作家、批評家)× 松浦寿夫(画家、武蔵野美術大学教授)

聴講者数:220 名

◎ピエール・ボナール展開催記念シンポジウム「ボナール、ナビ派、日本」

日時:10 月 21 日(日)13:30～17:00

会場:国立新美術館 3 階講堂

主催:国立新美術館、ジャポニスム学会

プログラム: 13:30-13:40 開催趣旨 三浦篤(東京大学教授)

13:45-14:15 プレゼンテーション 1

宮崎克己(昭和音楽大学教授)

「ボナールのジャポニスム」

14:20-14:50 プレゼンテーション 2

平石昌子(新潟県立近代美術館学芸課長代理)

「ボナール——沐浴の詩学」

14:55-15:25 プレゼンテーション 3

杉山菜穂子(三菱一号館美術館学芸員)

「ボナールとナビ派の日本受容」

15:30-15:45 休憩

15:45-16:45 全体討議 ディスカッション 高階秀爾(大原美術館館長)

16:45-17:00 質疑応答

聴講者数:120 名

◎講演+対談「ボナールの視覚」

日時:12月2日(日)14:00~16:00

会場:国立新美術館 3階講堂

出演者:佐々木正人(多摩美術大学教授)、ホンマタカシ(写真家)、

山田剛(日経イノベーション・ラボ上席研究員)

聴講者数:70 名

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入

- 来場者の動向をみながら、安全確保のための足元の結界ラインの強調や、誘導方法の変更など柔軟な対応をとり、来場者と作品の安全を確保した。
- 展示方法について事前に所蔵館と詳細な打合せを重ね、作品保全・防犯対策を強化した。すべての作品において、額の形状に応じて盗難防止リングを取り付けたり、Tプレートで額の壁固定を行うなど、防犯対策を講じた。
- 作品輸送時は、警報装置、中央制御ロック機能および消火器を備えたトラックで、安全面確保に努めた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度適用により多彩なボナールの作品群を初期から最晩年まで網羅的に紹介することができたことは、国民への優れた美術鑑賞機会の提供、国際文化交流の推進という、制度の趣旨に合致するものであると考える。オルセー美術館も本制度の趣旨を理解し、制度適用へ向けて協力的であった。

本制度の適用については、展覧会チラシ(第2弾)、ホームページ、図録、館内看板・会場入り口看板での告知に努めた。高校生無料観覧日も、決定後速やかに印刷物・WEBへの記載に努め、積極的な告知を行った。

無事に展覧会を終了することはできたが、今後も作品と来場者の安全面に配慮した会場構成、会場運営をより一層心がけたい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 国立新美術館、日本経済新聞社

●収入

48,336 万円

●支出

48,336 万円

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)	区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入	【入場料】	17,870 (33,079)	企画準備等基本経費	【借用料】	13,000 (13,000)
	一般 1,600円 × 104,941人	167,905,600		【謝金】	10 (0)
	大学生 1,200円 × 8,279人	9,934,800		【保険料】	2,127
	高校生 800円 × 1,010人	808,000		※制度適用された場合の金額を記入	
	有料率61.5% 一般：92% (104,941人) 大学生：7.1% (8,279人) 高校生：0.9% (1,010人)			【輸送費】	9,200 (9,200)
その他の収入	【図録売上】	3,394 (4,275)	企画準備等基本経費	【クーリエ等招聘費】	2,400 (3,000)
	2,500円 × 14,290冊			のべ12名 × 200万	
	図録販売手数料△5%			【図録制作費】	1,822 (2,470)
	【関連グッズ売上】	3,898 (4,500)		編集・デザイン・校閲費 200万	
	一人当たり単価700円×185,597×手数料30%			印刷費 1410万	
その他の収入	【その他】	704 (1,320)	企画準備等基本経費	原稿料 32万	
	音声ガイド貸出料			翻訳料 110万	
	550円×185,597×13.8%×手数料50%			画像使用料 70万	
				【その他印刷費】	665 (940)
				招待状 120万	
その他の収入	【協賛金・寄附金】	7,500 (7,500)	企画準備等基本経費	チケット 220万	
				会場配布リスト 65万	
	【補助金・助成金】			ジュニアガイド 160万	
	※開催分損金を含む			その他 100万	
	【その他】	14,970 (6,729)	設営・運営等会場関係経費	【企画構成費】	
その他の収入	日本経済新聞社負担金			【その他(交渉費・職員旅費等)】	200 (200)
				【広告・宣伝費】	5,680 (5,656)
				チラシ・ポスター、リリース制作費(デザイン費含) 950万	
				交通広告・新聞広告費・TV制作費 4200万	
その他の収入			設営・運営等会場関係経費	サイト制作費 200万	
				PR活動費 300万	
				その他30万	
				【展示施工費】	2,300 (2,300)
				施工費 2000万	
その他の収入			設営・運営等会場関係経費	展示関係費 300万	
				【会場事務費】	350 (550)
				【監視・警備費】	4,000 (5,000)
				【その他】	
				美術館の収入配分 (560×185,597万×61.5%)	6,392
その他の収入			設営・運営等会場関係経費	光熱水料	10
				グッズへの画像使用料	180 (12,960)
収入総額		48,336	支出総額		48,336